

鉢形城歴史館 平成25年春季企画展 プレ北条氏邦シリーズ第1回

# 「鉢形城主 上杉顕定」

## 「東日本の副将軍・関東管領上杉氏と鉢形城」

問い合わせ／鉢形城歴史館(☎586・0315)、または文化財課(☎581・2121内線541、542)へ。

小田原北条氏の代表的な支城として名高い鉢形城は、1476年から1590年まで、まさに戦国時代の幕開けから幕切れまでの114年間、歴史上にその名を残しています。しかし、鉢形城は当初から北条氏の城だったわけではありません。関東の戦国時代の幕開けともいわれる長尾景春の乱に始まり、移ろいゆく戦国時代の潮流の中、やがて豊臣秀吉の天下統一という波に飲み込まれるまで、鉢形城は幾度か城主を代えているのだ。

### 鉢形城主の変遷

史料に名を残す最初の武将は「長尾景春」。1476年、長尾景春は、自らの主家、関東管領が室町幕府に對立する古河公方と利根川を挟んで対峙している最中、鉢形城を本拠として、主家に反旗を翻す乱を起こしました。

続いて名前が登場するのは、景春のかつての主家、関東管領「上杉顕定」。味方の太田道灌の活躍もあり、景春を秩父へ追い込んだ後、顕定は鉢形城に入城します。

それから約70年間、鉢形城は関東管領上杉氏の拠点の一つとして、東日本の政治の中心的役

割を果たすこととなります。

しかし、関東管領上杉氏は、1546年の「河越夜戦」で北条氏康(北条氏邦の父)に敗れ、上野国平井城(現群馬県藤岡市)に撤退、さらに1552年には「長尾景虎(後の上杉謙信)」を頼って越後国(現新潟県)に逃れます。

1561年、上杉謙信が家督を継承し、関東管領に就任します。ちょうどそのころ、鉢形城には、北条氏邦が入城したと考えられています。

これ以降は、1590年に豊臣秀吉方の五万人の兵に囲まれ、わずか三千五百人の城兵で2カ月にわたる籠城の末、城兵

の身の安全を引き換えに開城するまでの約30年間、北条氏邦がここ鉢形城の城主として活躍したのです。

### 鉢形城歴史館企画展

#### 「プレ北条氏邦シリーズ」

鉢形城歴史館では、北条氏邦の前の時代にスポットを当て「プレ北条氏邦シリーズ」と銘打ち2回に渡る企画展を開催します。

第1回となる今回は、平成25年春季企画展「鉢形城主 上杉顕定」東日本の副将軍・関東管領上杉氏と鉢形城」を開催します。上杉顕定は1466年から

1510年に亡くなるまでの44年の長きにわたり、室町幕府の要職である関東管領を務めた武将です。

室町時代は「鎌倉公方」を頂点とする「鎌倉府」がほぼ東日本全体を統括していました(鎌倉府の管轄範囲図参照)。関東管領は、鎌倉公方を補佐する役職として、幕府から任命されました。鎌倉公方が東日本の将軍というべき立場でしたから、それを補佐する関東管領は、さしずめ東日本の副将軍だったといえます。

### 関東管領 上杉顕定

上杉顕定は、1454年越後守護上杉房定の二男として越後に生まれました。1466年に関東管領上杉房顕が陣中で急死した後、嫡男がいらない房顕の家督を継ぎ、1510年に亡くなるまでの44年間、関東管領職に

在位します。これは、歴代の関東管領と比較しても圧倒的に長い年数です。しかも、顕定の在位期間中は決して平穏無事に過ぎたわけではありません。

就任時点ですでに鎌倉公方の幕府への反乱(享徳の乱)が長期化しており、やがて自らの重臣長尾景春の乱、さらには同族の扇谷上杉氏との抗争(長享の乱)などの争いのほか、1498年には津波が鎌倉の大仏殿を押し流したといわれる明応地震という未曾有の天災にも見舞われています。

上杉顕定は、これらの争いや大災害を凌ぎ、44年間の長期にわたり関東管領の座に君臨し続けたのです。

名実ともに東日本の副将軍だった上杉顕定でしたが、最後は生まれ故郷の越後の地で無念の死を遂げています。

顕定は、実弟の越後守護上杉房能が、長尾為景(上杉謙信の実父)らに攻められ自刃に至った仇を討つという大義のもと越後に乗り込みました。一旦は為景方を駆逐しましたが、越後国内の統治が進まぬ中、再び為景方に攻め込まれ、戦況は次第に悪化。1510年6月20日、敗走途中に為景方の援軍との激しい攻防の末、ついにその生涯を閉じます(長森原の戦い)。

### 鎌倉府の管轄範囲



管領塚公園(南魚沼市教育委員会提供)「管領塚」は古くから上杉顕定の墓と伝えられている。

長森原(現新潟県南魚沼市)の古合戦場跡には「管領塚」という巨大な塚があり、古くから関東管領上杉顕定の墓と伝わっています。現在は「管領塚公園」として整備され、平成20年には南魚沼市を挙げて「関東管領上杉顕定公戦没500年祭」も行われています。

### 関東管領上杉氏と鉢形城

上杉顕定は1478年から亡くなるまでの32年間、鉢形城を拠点としていました。

顕定が亡くなった後も、顕定の孫(養子の子)の憲政が1546年に河越夜戦で北条氏康に敗戦するまでの約70年間、鉢形城は関東管領の持ち城だったと考えられます。

平成9年から13年までに行なった、二の曲輪・三の曲輪の発掘調査でも、1400年代後半から1500年代前半の遺物が出土していることから、上杉氏の時代には、少なくとも三の曲輪までは城域が広がっていたことが想定されます。

### 展示品紹介

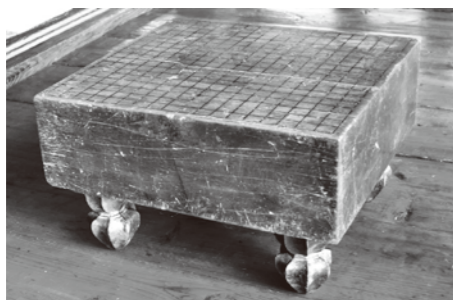
今回の企画展では、上杉顕定を中心として関東管領上杉氏ゆかりの品々を展示します。ここに紹介するもの他、埼玉県指定重要文化財の「上杉顕定書状」「足利成氏書状」「足利成氏安堵状」、鎌倉市指定重要文化財の「上杉顕定書状」「可諄(上杉顕定)書状」等の文書、「足利成氏軍旗(復元製作)」など多数の資料を展示する予定です。上杉氏を知ることで、より深く鉢形城を理解できると思いますので、ぜひこの機会にご覧ください。



伝上杉顕定所用 四十二間総覆輪筋兜(個人蔵)



伝上杉顕定所用 鞍(南魚沼市 雲洞庵蔵)



伝上杉顕定所用 碁盤(藤岡市仙蔵寺保管 藤岡市指定重要文化財)



鞍の前後とも、中心部だけを削り出した巻貝を雲に見立てて全面に散らし、中央に上杉氏の家紋、その両側に雲間を飛ぶ鳳凰が金箔で描かれている。



碁盤の裏に刻まれた上杉氏の家紋



伝上杉顕定所用小刀(鑑通し 個人蔵) 顕定が亡くなった長森原の管領塚から出土した。